

翻訳にあたってのヒント

その 105

■ 英語では単に「player」であるが・・・

普通の英語の文章のみならず、実務・ビジネス文書でもよくお目にかかるこの「player」であるが、実際に用いられている多種多様な文脈からすると単に「プレイヤー」あるいは「プレーヤー」と日本語では言い表せない言葉だということを痛感させられる。

音楽関係であれば、前記の「プレイヤー、プレーヤー」の他に、「(音声・音楽)再生装置」と「演奏者、奏者」「歌手」などが真っ先に浮かぶ訳であるし、芸能関係であれば「役者や俳優(男優・女優)そして出演者や芸人(類語は performer や actor その他)」などであろうし、スポーツ関係であれば、当然のことながら、「選手や競技者」である。

やや俗っぽい内容で雑誌や歌詞などにこの言葉が出てきたら、その意味は「遊び人(男女を問わず異性をかけもちする人=最近の性的に乱れた世の中では男女の差はないらしい・・・(*^_^*))、はったり屋、なまけ者、ばくち打ち、博徒、ギャンブラー」などがあてはまる事例が多いが、どれが適訳であるかは、文脈に応じて変わる。

そして私が従事している実務翻訳の世界でこの英語が使われていると、使い分けは多岐にわたってくる。いろいろな英英辞典をひくと「participant」という定義が載っていることが多いことから、それからすれば「参加者」が第一義的な定義であろうが、これは場合によっては「関係者」で充分通じることも往々である。その一方では、「a key/big/major player」を指す「大物、大手、大企業」の意味合いで使われていることもあるから、そうした場合は「有力者、有力企業・有力団体 (influential entity)」と大胆に訳してもいいかしのれない。とはいいつつ、「企業、団体、事業体」の意味で使われている場合も多いので、そういった文脈では、先の関係者という意味も含めて「事業者、運営事業者、運営者、事業家、取引業者、担当者、重要な働きをする人(人材)、重鎮(=中心的人物)、支える人、欠かせない人(人材・社員)、(商取引などの)当事者、従事者」としてもいい事例もよく見られる。

また「market player」という語句もよく使われているが、この場合には、日本語では「市場関係者、市場」とよく表現される。

【例文】

Even domestic market players remain skeptical about ... 国内の市場関係者の間にさえ、～を疑問視する声がある。

Market players have high expectations that ... 市場は、～することへ大きな期待を寄せている（～することへの大いなる期待がある、～することに大きな期待がある・高い期待がある・大いに期待している）。

Market players are looking with icy disapproval at ... ～に対し、市場の見方は厳しい。

以上、これで第 105 回目完了。